



first call

produced by **MEDIPLAT**

衛生講話資料

感染症Update2026

ハンタウイルス・エムポックス・麻しん・COVID-19・百日咳

※2026年5月時点の情報となります※

1. 感染症ニュースの読み方

2. 2026年話題の感染症

1. ハンタウイルス
2. エムポックス
3. 麻疹（はしか）
4. COVID-19（新型コロナウイルス）
5. 百日咳

感染症は
正しく「**知り**」
正しく「**対策**」
しましょう



感染症情報を整理する「4つの視点」

ニュースで話題の感染症が、必ずしも職場で重要とは限らない

①
国内で
増えているか

②
人から人へ
広がりやすいか

③
予防・治療は
あるか

④
職場で
何をすべきか

4つの視点で見ると・・・

ハンタ	エムポックス	麻疹	コロナ	百日咳
重症だが 国内流行リスク は現時点で低い	濃厚接触が中心 日本も患者あり 拡大は限定的	国内増加傾向 感染力も強い 改めて対策を	低水準でも 流行を繰り返す 基本をしっかり	長引く咳 乳児に注意 昨年大流行

厚生労働省/JIHS 各感染症情報より抽出（2026年5月確認）

①ハンタウイルス：現状整理

■ これまでの経過

- ・ 2026年5月にクルーズ船内で**集団感染**が発生
経路：アルゼンチン→スペイン
- ・ 南大西洋上を航行中にWHOに報告
「乗客が乗船中/下船後に死亡」
→下船後の人もおり、**世界中で追跡調査**
- ・ 原因がハンタウイルス肺症候群(HPS)
→HPSは**重症化・死亡**のリスクが高い
- ・ **日本人**も1名乗船（現在症状なし）
→現在英国でWHO推奨に基づき経過観察中

■ 現時点でのとらえ方

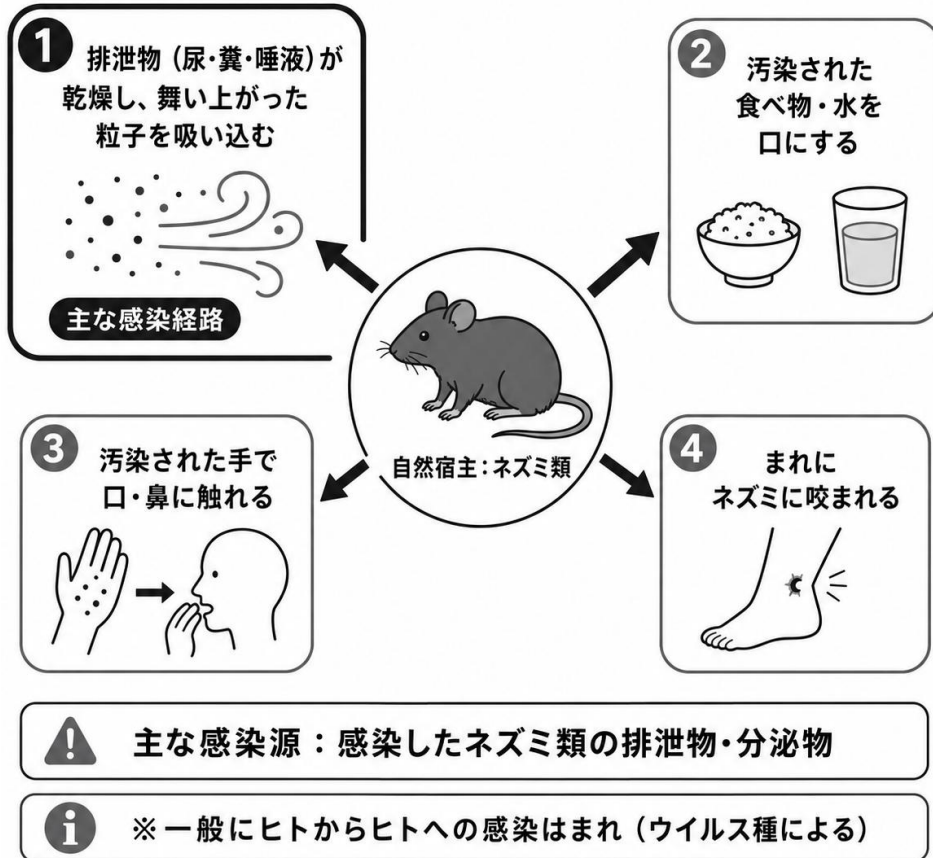
- ・ 日本国内での患者発生の**報告はない**
（ハンタウイルス肺症候群に関して）
- ・ **宿主**となるげっ歯類の存在が重要
→日本では**宿主が生息していない**
- ・ 国内でヒト→ヒト感染拡大する可能性は低い
→職場での流行を心配するのではなく、
渡航歴や曝露歴(ネズミ等)の確認が大事
- ・ **海外渡航者・清掃作業員や倉庫管理者**は
情報をアップデートしておくが良い

**コロナウイルスとは感染の広がり方が異なる
「怖い感染症」だが、現時点で一般職場で広がる可能性は低い**

FORTH「[国外航行中のクルーズ船におけるハンタウイルス感染症事例](#)」／厚生労働省報道発表（2026年5月）

① ハンタウイルス：感染症の性質

■ 感染経路



① ハンタウイルス肺症候群 (HPS)

地域	北米・南米	死亡率	40~50%
潜伏期	1~5週	症状	発熱や咳、筋肉痛+嘔吐や下痢も →急速に症状が進行し、呼吸不全

② 腎症候性出血熱 (HFRS)

地域	極東アジア・北欧・東欧 ※日本は1970年代以降なし	死亡率	3~15%
潜伏期	10~20日	症状	突然の発熱・頭痛・脱力・腹痛等 →出血症状や腎機能障害

※HPSとHFRSを起こすウイルスは株が異なる

FORTH, 「ハンタウイルス感染症」より作成

①ハンタウイルス：対策

■ 基本的な対策

- ・現時点で有効な予防接種は開発されていない
- ・げっ歯類（ネズミ等）との接触は気をつける
- ・食品保管はフタつきで（家庭含め）

■ 特異的な対策

- ・海外渡航者
流行地域の場合、現地感染状況に留意
体調不良時は渡航歴を医療機関に申告
（※ハンタウイルスに限らず重要）
- ・倉庫・清掃作業
ネズミの多い環境は粉じん吸入を避ける
古い空き家・納屋の掃除も注意

■ ヒトーヒト感染について

- ・南アメリカの固有種である「アンデス株」でヒトーヒト感染を起こす
- ・アルゼンチンなどでは**集団感染の報告**あり
→今回のクルーズ船が“世界初”ではない
- ・**濃厚接触・持続接触**でないと広まりにくい
→COVID-19とは性質が異なる
- ・クルーズ船は**閉鎖環境**なので広まったか
→但し現時点の感染疑いを含めても数名
- ・潜伏期間が非常に長い
→知らない間に移動で広めるリスク
- ・ヒト感染より**げっ歯類の感染の方が対策としては重要**

FORTH, 「[ハンタウイルス感染症](#)」, 厚生労働省「[ハンタウイルス肺症候群](#)」より作成

②エムポックス（旧名称：サル痘）

■ これまでの経過

- ・以前から**アフリカ**で感染・死亡を繰り返す
- ・2024年8月に、WHOがアフリカの流行を「**国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態**」と宣言（2025年9月に終了）
- ・同時期に**欧米**などで感染拡大
→以前と比べ追跡が難しく、注意を要した
- ・天然痘ワクチンが予防に有用

■ 日本での状況

- ・2022/7/25に一例目、以降報告が続いている
これまでに**318例**の発生（2026/5/8時点）
※4類感染症として**全数報告**が行われている

■ どんな感染症？

地域	アフリカ→全世界		
感染	感染者の皮膚病変・体液・血液		
潜伏期	1～2週	死亡率	10%以下
症状	発熱・頭痛・リンパ節の腫れなど →発熱1～3日後に特徴的な発疹 自然軽快が多いが、免疫不全者・ 子ども・妊婦は 重症化リスク あり		

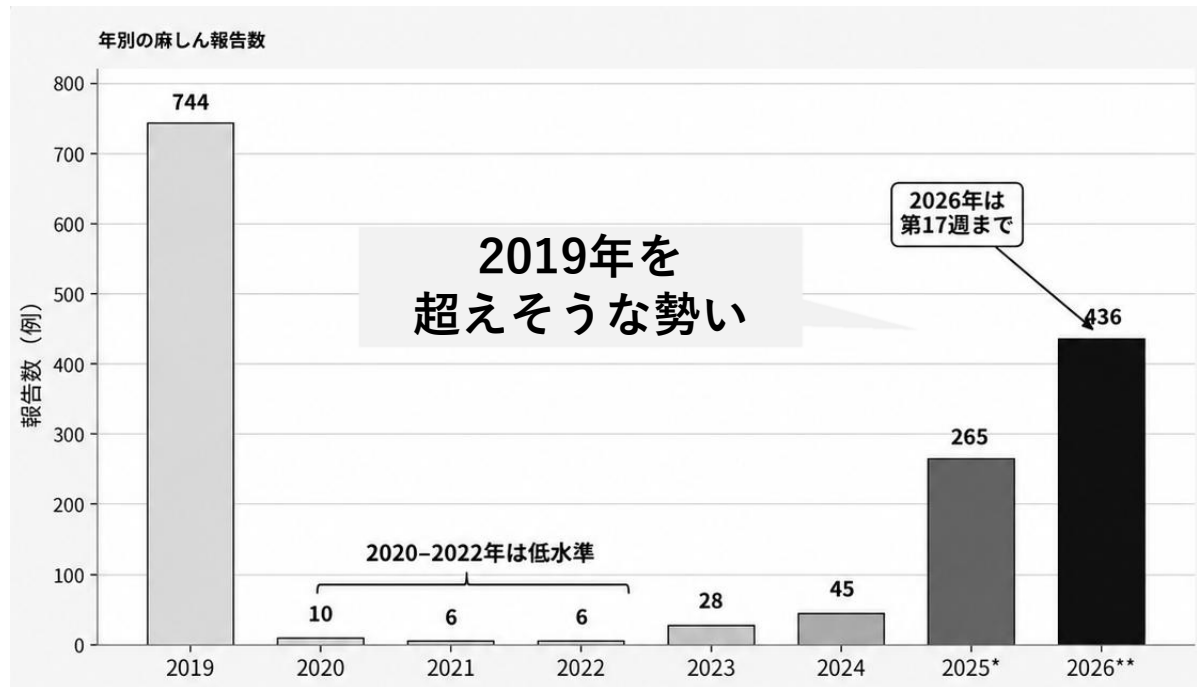
■ 職場での対策

- ・症状があれば受診
→感染していれば適切な治療・隔離期間を
- ・**通常職場での感染リスクはほぼない**

JHS「[エムポックス](#)」, 厚生労働省「[エムポックス](#)」より作成

③麻疹（はしか・麻しん）：現状整理

今最も注意したい感染症！！！！



海外持ち込みだけでなく
国内感染拡大が増えている

国立感染症研究所 感染症発生動向調査よりChatGPTにて作成

注意! 感染力が極めて高い

麻しん(はしか)

感染拡大しています

症状 感染約10日後に発熱や咳などの風邪症状が現れ、2~3日熱が続いた後、**39度以上の高熱と発しん**が出現します。

感染経路 空気感染等によりヒトからヒトへの**感染力は非常に強い**です。発症日の1日前から解熱後3日間まで感染力があります。

厚生労働省、「麻疹」より抜粋

③麻疹（はしか・麻しん）：感染症の性質

■ 感染経路

- ・ **空気感染する！！！！**
職場や公共の場での感染が広がりやすい
- ・ **極めて感染力が強い（最強クラス）**
基本再生産数が12～18と極めて高い
- ・ **免疫がないとほぼ100%発症**
ワクチン接種歴or既往歴がないとほぼ100%
大人での初回感染は重症化しやすい
- ・ **発症前から感染性を持つ**
「気づいたら隔離」で予防できなず
発症前に拡散させやすい

**感染しやすい&発症しやすい
&時に重症化する「最悪の感染症」**

■ どんな感染症？

地域	全世界（日本でも流行）		
潜伏期	10日程度	死亡率	0.1%程度
症状	咳・鼻水・目の充血など風邪症状 →2～3日後に発熱＋発疹 肺炎/中耳炎/脳炎を合併することも		

■ 麻疹の「怖さ」

- ・ 脳炎では**後遺症**を残すことがある
- ・ 数年後に**致死的な脳炎**である
「**亜急性硬化性全脳炎**」を発症することも
- ・ 他疾患も含めた**免疫記憶を破壊**する
→他感染症にかかりやすくなる

③麻疹（はしか・麻しん）：対策

■ ワクチン接種が唯一の対策

- ・適切な接種が済んでいれば感染を予防可能
※2024年度 MRワクチン接種率は93%未満と
集団免疫維持に必要な95%を下回る
- ・1990/4/1以前に産まれた場合、接種回数が不足している可能性→追加接種も検討を

■ 特に気をつけるべき人

- ・妊婦（&周囲の人）
重症化しやすく、3～4割が流産・早産
- ・6ヶ月～1歳未満の子ども（&周囲の人）
母体からの移行免疫が切れるが、
ワクチン定期接種前&重症化しやすい

■ 職場での対策

- ・医療・保育・教育・公共交通機関従事者は
平時から接種歴などを確認
- ・海外出張・駐在者は渡航前に必ず接種歴確認
- ・不明の場合は抗体検査を行う
→不十分ならワクチン接種を

都道府県の麻しん発生情報はチェックを！

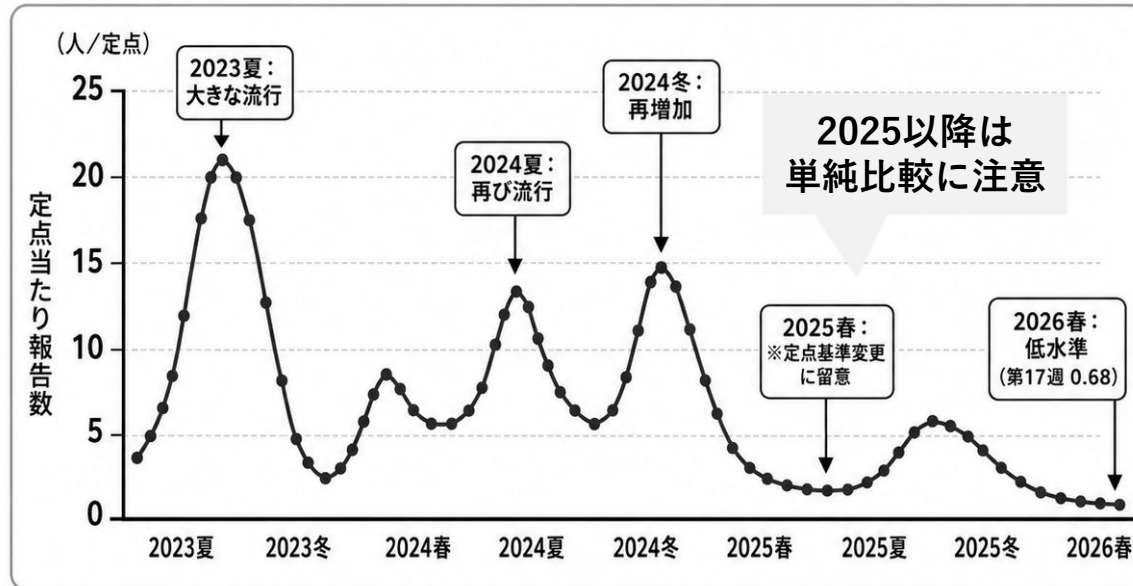


近隣で発生した場合社員に情報提供し
接触疑いがある場合や症状がある場合は
家から出ずに保健所に電話するよう指示
(絶対に出社させてはならない)

2. 2026年話題の感染症

④新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

■ 最近の感染状況



- ・ 2023年以降は夏・冬を中心に流行を反復
- ・ 今後の変異や再流行の可能性はあるが、現時点では特異的な対策が必要な段階ではない

■ 今後の方針

現時点では「特別対応」ではなく、「標準的な体調不良対応」が重要

体調不良時は
無理に出勤しない

咳エチケット
人混みはマスク

手洗い・うがい

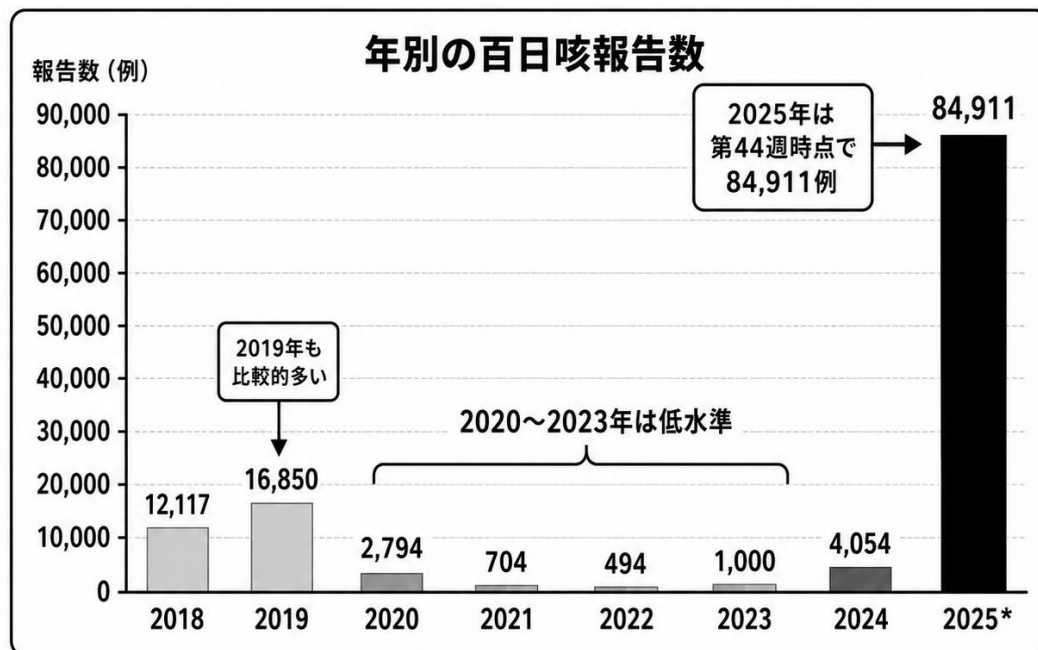
適切な換気

高リスク者への
配慮

厚生労働省, 「新型コロナウイルス定点あたり報告数の推移」, 「新型コロナウイルスの発生状況」よりChatGPTにて作成

⑤ 百日咳

■ 最近の感染状況



大人では重症化しにくい
子ども（特に**低月齢**）は要注意
2025年に大流行をしている

■ どんな感染症？

- ・ **感染経路**
飛沫や接触感染（通常のカゼと同じ）
- ・ **症状**

カタル期 (約2週)	かぜ症状から始まり、 咳が増え・激しくなっていく
痙咳期 (2~3週)	発作性・けいれん性の激しい咳 時に無呼吸発作・チアノーゼや けいれんに至ることも（小児）
回復期	徐々に発作が回復 成人は長期に咳が続きやすい

- ・ **対策**
基本的な感染対策 + 小児はワクチン

JHS, 「[百日咳の発生状況について](#)」よりChatGPTにて作成